

いずれは中間処理を 目指したい



有限会社名古屋クリーンアップ

(名古屋市名東区)

柴田代表取締役

住宅地に囲まれた事務所は、まさしく街の廃棄物処理相談窓口の感がある趣き。聞いてみると、収集車は国道302号線沿いの別の場所に確保してあるとか。名東区では数少ない産廃業を営む名古屋クリーンアップに柴田社長を訪ねました。

— まず、創業の経緯を教えてください。

柴田代表取締役（以下、柴田に略）『先代がしております、私は昭和59年に他の職種から転身して始めました。今も昔も主体は一般廃棄物なのですが、時代の要請もあり、私の代になった昭和59年に初めて産業廃棄物の収集運搬許可を取得したのです。一般廃棄物を収集しているうちに、どうしても産業廃棄物扱いになるものも頼まれますからね。』

— 業務内容をお伺いしたいのですが。

柴田『やはり一番多いのは廃プラスチックです。続いて建設廃材、金属くず、ガラスくずといったところ。市内のせいもあり、排出量が多すぎないものから、曜日を決めて一気に収集車いっぱい集めて処分場に運んでいます。土地柄、あまり大規模な施設を新たに作ることもできないのが悩みの種ですね。昔からのお客様もいらっしゃいますから別の場所に移転するわけにもいきませんし。』

— 特別管理産業廃棄物を含めて、取扱品目が多岐に渡っているようですが。

柴田『特別管理産業廃棄物としては感染性産業廃棄物と引火性廃油を扱っています。病院相手ということも多いですし、当社は、幅広い要望に応えられるよう産業廃棄物の取扱品目の種類を多くして、どのような廃棄物も処理できる体制はいつも作っています。ただ多品種少量にな



社名/有限会社名古屋クリーンアップ
所在地/愛知県名古屋市名東区亀ノ井3-144
代表者/柴田武彦 創業/昭和54年 従業員/3名 TEL/052(703)5317
事業所/本社
営業種別/収集運搬 取扱品目/燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック、紙くず、木くず、動植物性残渣、ゴムくず、金属くず、ガラスくず、陶磁器くず、建設廃材、引火性廃油、感染性産業廃棄物

りがちなのが問題ですね。今、価格が異常に下がってきていますのでやりにくくなりましたね。当社は一定の価格以下でしたら引き取れませんとはっきり言っています。』

— 将来の展望を教えてください。

柴田『収集運搬だけですと、処分場だけが頼みの綱です。いずれは中間処理の分野にも進んで破碎処理などもしてみたいのですが、まだ少し先のことになりそうですね。リサイクルにも進みたい意思はあるのですが、リサイクル製品の需要がまだまだ少なく、現状の当社の規模では採算に合わないだろうと思います。引火性廃油については、印刷所などと結ぶことによって、今後安定した処分量が維持できるのではないかと考えています。』